

雪の運転・氷を踏んで

チェーンは必ず車の越冬作戦いろいろ

雪の降る季節になり、車の越冬準備、積雪道路、凍結道路の運転など、まきには事故が待ちかまえています。越冬作戦はこうしましょう。

タイヤ対策

雪道、凍結道を進むには、まずタイヤ対策。スノータイヤかスパイクタイヤに交換しておく。それでもチェーンをまかなければ通行できない場合もある。チェーンは常時積んでおく。イザという時に使うようにする。タイヤチェーンをつける時、遅くするのは後続車に迷惑をかけるので、対向車がチェーンを使っているようなら、こちらも使うようにする。

準備品

雪道で立往生したときのことを考えて、ムシロ、スコップ、作業用の上衣や手袋を用意しておく。ホイヤーロープや、バッテリーコードも欲しいもの。輪ゴムや針金も欲しい。針金はビスがわりになったり、タイヤチェーンのはしをどめたりして思わぬときに役に立ちます。そのほか、予備食糧、古毛布、新聞紙、ガムテープも欲しいもの。ドリリング(無負荷エンジン

不凍液の濃度

氷点下で凍る水は、ラジエターやエンジンを破損するほどの力を持っています。不凍液を入れることを知っていても、濃度によって効果のちがうことを知る。不凍液は、だいたい冷却容量の10%ならマイナスイナス五度まで、30%ならマイナスイナス十五度まで冷却水が凍る心配はない。車の置場

とまれるスピードで

雪道走行

雪道が突然不通になって車中泊を余儀なくされることもある。一リットルのガソリンで何時間ぐらいアイドリング(無負荷エンジン

冬の悩みは雪と氷。引っかかりのない路面を走ること

バルブキャップ

冬はタイヤのバルブキャップ(空気を入れるところのフタ)を取り付けた方がよい。バルブの口に水溜がつくと、凍ったときバルブの弁に圧力が加わって、空気が抜ける心配がある。

安全に走る二つの鉄則

雪中走行の二つの鉄則は、チェーンやスノータイヤで歩みを進める。荒い目をもったタイヤは、歩み進むことに雪を押しつぶしてゆく。そして雪の上を固められた押型を崩さないようにして歩みを進める。急発進とか急加速すれば、強いエンジンの力でこの押型は簡単に崩れてしまう。雪を踏みしめながら一定のスピードで走ることが秘訣です。

死者連続三年減少

最近の交通情勢

十一月二十五日現在の、交通事故、車両数および免許人口は次のとおりです。

全国的に交通事故は減少の傾向を示しており、死亡事故は十一月二十五日一日に達したが、これは前年



ドライバーにとって冬は気の重い季節でも備えあれば憂なし 安全だけはしっかりと

本県の事故

十一月二十五日現在で、発生は四〇七〇件で前年同期より八八〇件少なく、減少率は一七・八％。死者は二二〇人で三五人少なく、減少率一八・六％。傷者は五八二人で二五四人少なく、減少率一八・四％。七都道府県中二十九位であるが、三年連続して十〇％以上の減少を示したのは全国で本県のみである。

本県の特徴

歩行者の死亡事故が多く三九・三％と高く(全国平均三三・三％)そのうち七・四％は老人と子どもと占めている。現在老人一九人、子ども一人計二〇人が、歩行者とくると老人と子どもも死者が多いことは本県の特徴であり、死亡事故を減らすには、まず緊急に老人と子どもを事故防止対策を強力に推進することである。

飲酒運転が増えてきた

飲酒運転事故がまた増えている。くるまを凶器にする飲酒運転追放に対する議論も高まり、また警察のきびしい取締りもあって飲酒運転による事故率は一時五％まで落ちたが、冬期に入ってから増加の傾向を示し、また五・六％に上っている。年末にはさらに増加も予想されるので、警察でも引き続き強力な取締りを行うことにしている。本年の飲酒運転の逮捕者は四六三人に達しているが、やはり老人と子どもも事故防止対策同様に、飲酒運転の追放は当面の重要な対策といえよう。

車両の増加

県下の自動車台数は二二万二九二五台に達し、前年同期に比し六・八％の増加を示し、一日平均四〇台の増加を示している。

免許人口

県下の自動車運転免許所持者は二六万五七四六人に達し、前年同期より四・八％増加した。これは一日に三三人のドライバーが誕生していることになる。



第1部 最優秀賞 甲府市住吉本町 三井 治氏 撮影



第2部 最優秀賞 榊形町桃園 高坂幸太郎氏 撮影

第8回交通安全写真コンテスト

最優秀賞

三井 治氏 (第一部)
高坂幸太郎氏 (第二部)

山梨県交通安全協会主催の、第八回交通安全写真コンテストは、三月一日から募集をはじめ、八月三十一日をもって締め切りました。今回の応募は、第一部(一般交通)についての写真(二八八点、第二部(交通事故)についての写真(六四四点)計九三二点が寄せられました。このコンテストは、交通安全の写真撮影を通じて、

交通安全に対する理解と関心を高めるとともに、優秀作品をポスターの作成や機関紙に掲載したり、写真展などの展示用に使用して、交通安全の啓発に役立てるために毎年行われているものです。

審査は、写真専門家や報道機関の人たちによって行われ、入選者にはそれぞれ賞状、賞金、賞品が贈られました。

入賞者
最優秀賞 三井 治 甲府市住吉
金賞 提吉 彦 敷島町
銀賞 岡田 清 敷島町
銅賞 野中光征 榊形町平岡
ほか二十名